



読書をしなくてはいけない確固たる理由とは

少し古いですが、以下、朝日新聞2017年3月8日付掲載の投書を、まずはお読みください。

読書はしないといけないの? (大学生 21歳・男性)

「大学生の読書時間『0分』が5割に」(2月24日朝刊)という記事に、懸念や疑問の声が上がっている。もちろん、読書をする理由として、教養をつけ、新しい価値観に触れるためというのはあり得るだろう。しかし、だからといって本を読まないのは良くないと言えるのだろうか。

私は、高校生の時まで読書は全くしなかった。それで困ったことはない。強いて言うなら文字を追うスピードが遅く、大学受験で苦労したぐらいだ。

大学では教育学部ということもあり、教育や社会一般に関する書籍を幅広く読むようになった。だが、読書が生きる上での糧になると感じたことはない。役に立つかもしれないが、読まなくても生きていく上で問題はないのではないかというのが本音である。読書よりもアルバイトや勉強の方が必要と感ぜられる。

読書は楽器やスポーツと同じように趣味の範囲であり、読んでも読まなくても構わないのではないか。なぜ問題視されるのか。もし、読書をしなくてはいけない確固たる理由があるならば教えていただきたい。

とんがっていますねー。当時大学生だった息子が、苦勞の大切さを説こうとする私に、「石の上にも3年」とか、「苦勞は買ってでもせよ」なんて古いよ!ダラダラと修行させるぐらいだったら、即戦力になりたいと願っている本人の望みどおり、短期間で効率的にノウハウを伝授してあげべきだよ。」と迫ってきたことを思い出します。本題に戻します。前述の大学生の投書に対して、「読書は試験に役に立たない。役に立つが分からない効率の悪いものに時間を削ることはない。」等の多くの共感の声が寄せられたそうです。さあ、皆さんはどう思われますか。

今度はベストアンサーとしてお薦めの一節を以下に紹介します。伊藤忠商事の元社長、中国特命全権大使の経歴を持つ経済界きっての読書家「丹羽宇一郎氏」の著書『死ぬほど読書』からの引用です。



【能楽の鑑賞・体験教室】

「本なんて役に立たないから、読む必要はない」そんな考え方をする人が少なからず出てきたということは、小さい頃から遊びも勉強も習い事も親や周りから、よかれと思って与えられた環境で育った人が多いことを表しているのだと思います。

与えられたものの中でばかり生きてると、「自分の頭で考える」ということができなくなります。自立した思考ができないから、たまたま与えられた狭い世界の中だけで解決してしまう。

読書なんてしなくていいという人たちの背景に、私はそんなことを感じます。

周りから与えられた狭い世界の中で、何に対してもすぐに実利的な結果を求める。そんな生き方は、いうまでもなく精神的に不自由です。それが不自由であることを、本人は露ほども感じていないと思うと、身震いするほど、自由の世界へと手を差し伸べたくります。

人は自由という価値観を求めて、長い間、闘ってきました。努力し、工夫し、発明して進歩してきた果てに、今の自由な社会があります。

それは人類史上、かつてないほど自由度の高い環境といっているかもしれません。

しかし「何でもあり」の世界は一見自由なようですが、自分の軸がなければ、実はとても不自由です。それは前へ進むための羅針盤や地図がないのと同じだからです。それらがなければ、限られた狭い中でしか動けません。

では、自分の軸を持つにはどうすればいいか?

それには本当の「知」を鍛えるしかありません。読書はそんな力を、この上なくもたらしてくれるはずで、すなわち、読書はあなたをまがいものではない、真に自由な世界へとみちびいてくれるものなのです。

数年前は、親の価値観を全否定し、口を開けば論破しようとしてきた息子も、就職して様々な苦勞や経験を積んだせいか、変わってきました。与えてもらえない暮らしを数年続けてきたせいか、親の話に耳を傾けたり、納得したりする姿が多くなり、Yes・Noだけでなく、自らのことを詳しく話すようになりました。少し角が取れたかな。

「教員不足で学校は大変な状況よ。今からでも遅くない、今の仕事辞めて、教員免許、取る?」の問い(冗談)には、ふれずに全否定していますが、とんがる(熱くなる)のは若さの特権。親はハラハラさせられますが、前だけ向いて突っ走る若さを、今は存分に発揮させるべきなのでしょうね…。

言葉を通して

現代は、社会や家庭の変容に伴って、人とかかわりやコミュニケーションがうまくできない子供や社会人が増えてきていると言われます。子供は「なんて言ったらいいの?」と親に頼りますが、最近の社会人はプライドや面倒臭さからか、「教えてください」と言えずに辞めていくのだそうです。

人は言葉によって、理解し、思考し、表現します。しかし、言葉が不足しているために、それがうまくできずに、トラブルや困難が生じている状況が窺えます。マニュアル化、ユニバーサルデザイン化、便利化など過剰なサービスにより、「人の能力の退化」が懸念されます。言葉は会話、読書、学習をしないと、自然には身に付きません。



【中学部関西修学旅行】